

変わらぬ理念、変わりゆく方途

森 下 洋 一

秋の深まりとともに空は青くすがすがしく澄みわたり、今年も9月28日の創立記念日が近づいてきました。毎年、この日を迎える度に思うのは、われわれ関西学院の変わらぬ理念、マスタリー・フォア・サービスのことにほかなりません。

このスクールモットーが、第4代院長となられたベーツ先生によって初めて提唱されたのは1912年のこと。われらが母校が原田の森に誕生した1889年から、20年余りを経ていました。

人間の生命には一人で生きる個別的側面と他者と分かち公共的側面があり、前者には自修、後者には献身という、それぞれの理想がある。そして奉仕に通じる献身は自修の基礎の上に立って初めて真に効果あるものとなる。このように先生は説かれました。その上で、「人間は社会に奉仕するところに比例して、それだけ偉大と称せられるのである」と、マスタリー・フォア・サービスの本質を示してくださったのです。

以来、今日に至るまで、縁あって関学の門をくぐった何十万もの仲間が、このスクールモットーを拠り所にしながらかそれぞれの道を歩んできました。こうした関学ならではの姿は、これから先、いかに時代が移ろうとも、けっして変わることはないと思います。また、変えてはならないと思うのです。

かくの如くマスタリー・フォア・サービスの理念は不変です。けれども、この理念を実践していくための方途は違います。こちらは理念とは反対に、それぞれの時代のありように即して、どんどん変えていかなければなりません。

理念というものは、変わりゆく社会の要請を捉えて実践されてこそ、輝きを増していきます。ですから理念実践のための方途は、常に革新されていかななくてはならないのです。そうでなければ方途はたちまち古ぼけ、それが理念実践の停滞を招き、やがては理念そのものが朽ち果ててしまいます。

不易流行という聖型松尾芭蕉の哲学があります。これに当てはめるなら、理念は不易にして、方途は流行ということになるでしょう。われわれ一人ひとりがマスタリー・フォア・サービスというかけがえのない理念と向き合い、その不易流行について、それぞれの立場でじっくり考えてみたいものです。

9月28日という意義深い日をして、学生諸君が、教師や研究者の皆さんが、学院の運営に当たる経営層が、そして卒業生が、ぜひこれを実行してみようではありませんか。

(同窓会会長)